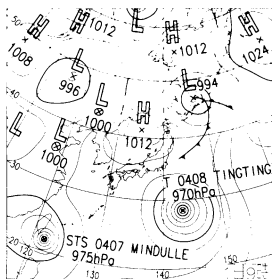


日々の天気図

— No. 30

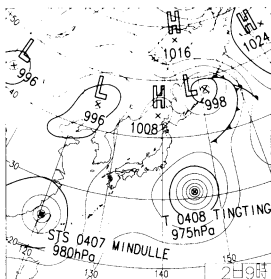
2004年7月

- ・12日～13日、[平成16年7月新潟・福島豪雨]、栃尾市や只見町では13～17日の総雨量600 mm超
- ・17日～18日、[平成16年7月福井豪雨]、福井県美山町は88 mm/hを伴い日雨量283 mm
- ・31日、台風第10号高知県に上陸、奈良県上北山村で30～31日の2日間雨量が850 mmを超える
(気象庁予報部予報課)



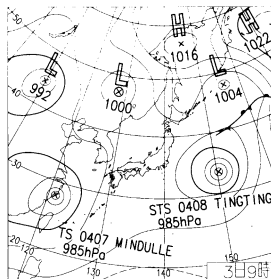
1日(木) 移動性高気圧に覆われる

移動性の高気圧に覆われ、ほぼ全国的に晴れ。北海道は低気圧の影響で午前中雨。東海～九州・沖縄が真夏日となる一方、寒気が入った札幌市の最高気温は5月下旬並の18.1℃。



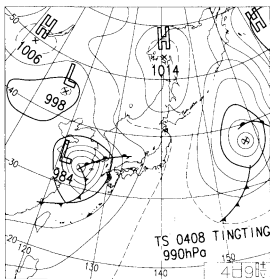
2日(金) 東・西日本高温続く

日本付近は台風2個と低気圧2個に囲まれるが、高圧部に緩やかに覆われ、全国的に晴れ。最高気温は高松市で34.6℃。那国島では台風7号により、最大瞬間風速32.5 m/s。



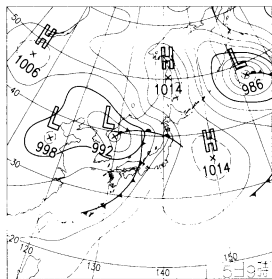
3日(土) 全国的に概ね晴れ

日本付近は緩やかに高気圧に覆われ、全国的に概ね晴れ。よく晴れた西日本は各地で気温が上がり、大分県日田市では35.9℃。台風第7号は大陸沿岸を北上。



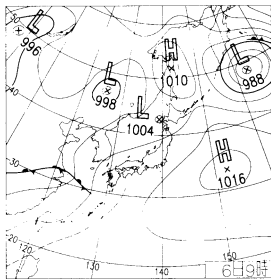
4日(日) 台風第7号温帯低気圧に

台風第7号から変わった低気圧により、九州・沖縄は雨。その他は概ね晴れて、北陸～山陰は今季一番の暑さ。一方、北海道オホーツク海側には冷たい海風が入り、網走市は13.5℃。



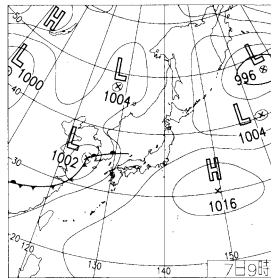
5日(月) 日本海側フェーン

秋田～山陰は、暖かい南風にフェーン効果加わり、多くの所で今季一番の暑さを更新。富山市では午前6時に30.0℃。新潟市の最高気温は平年より11℃高い36.9℃。



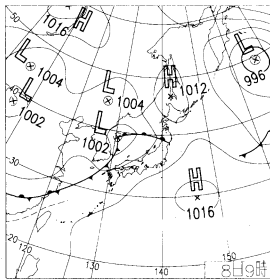
6日(火) 南西諸島で雷雨

東北～九州は高気圧に覆われ気温上昇。盛岡市は平年より約10℃高い32.4℃。熊谷市は約8℃高い36.2℃。沖縄は雷雨。名護市では午後に雷を伴う46.5 mm/hの激しい雨。



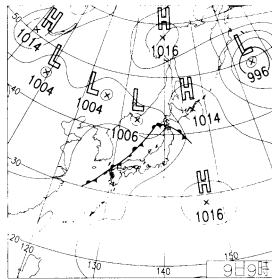
7日(水) 関東中心に気温高い

高気圧に緩やかに覆われ、ほぼ全国的に晴れ。関東を中心に気温高く、熊谷市の37.5℃をはじめ、関東各地で今季一番の暑さ。九州では積乱雲が発達し、山沿いを中心にわか雨。



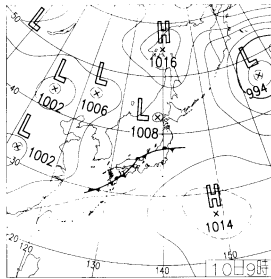
8日(木) 東・西日本熱帯夜

日本海の低気圧や前線の影響で北日本や九州は雨。その他は太平洋高気圧に覆われて晴れ。朝の最低気温は全国的に平年より高く、東・西日本の広い範囲で熱帯夜。



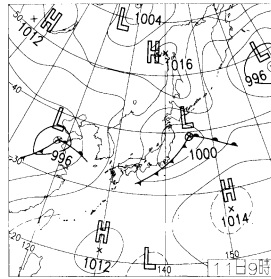
9日(金) 広い範囲で雷雨

日本海の前線の影響で北海道や九州は雨。その他は概ね晴れるが、上空に寒気が入ったため、全国的に大気の状態が不安定。午後には東北南部～西日本の広い範囲で雷雨。



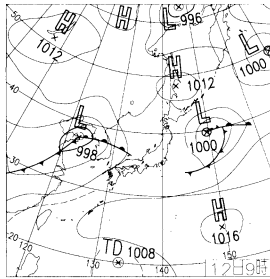
10日(土) 東海・近畿で激しい雨

梅雨前線や上空の寒気の影響で西日本を中心に非常に激しい雨。愛知県一宮市では67 mm/hを伴い日雨量286 mm。市内の一部で浸水害。千歳空港は霧のため欠航が相継ぐ。



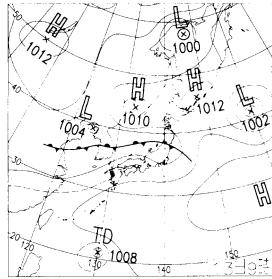
11日(日) 横浜で雹

北日本は低気圧の影響で雨。東日本は大気の状態が不安定。所々で雷雨。横浜市では直径12 mmの雹(ひょう)を観測。九州・中国・四国が梅雨明け。参議院議員選挙。



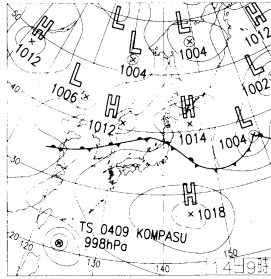
12日(月) 北日本気温低め

前線の接近により近畿北部・北陸は雨。関東や九州・沖縄は晴れ。30℃を超える中国・四国以西に対して、オホーツク海から冷たい空気が入った北見枝幸では5月上旬並の12.8℃。



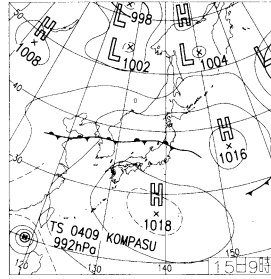
13日(火) 新潟・福島豪雨

梅雨前線の活動が活発化し、新潟県や福島県で非常に激しい雨。新潟県栃尾市では58 mm/hを伴い、日雨量421 mmの豪雨。堤防の決壊など被害甚大。近畿・東海・関東で梅雨明け。



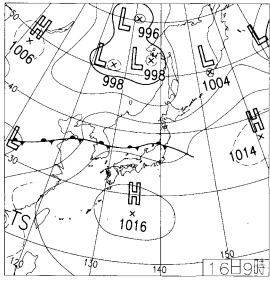
14日(水) 台風第9号発生

梅雨前線が停滞し、東北地方の山間部では30 mm/hを超える激しい雨。東・西日本は太平洋高気圧に覆われ激しい暑さ。岡山市の最高気温36.5℃。

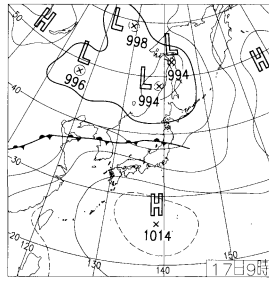


15日(木) 宇都宮で雹

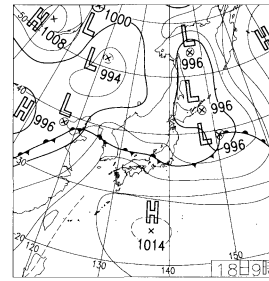
前線がかかる北陸～東北地方は曇りや雨。その他は本州南の高気圧に覆われ晴れ。関東では午後は大気の状態が不安定となり各地で雷雨。宇都宮市では雹(ひょう)を観測。



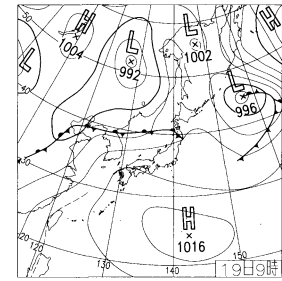
16日(金)新潟・福島再び激しい雨
梅雨前線の活動が再び活発化。新潟県新津市35.5mm/h等、新潟・山形・福島の各県で短時間に激しい雨。所々で日雨量100mmを超える。その他は高気圧に覆われて晴れ。



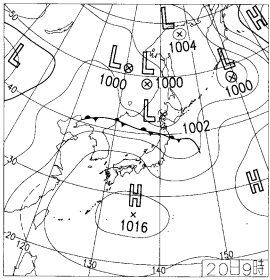
17日(土)前線停滞激しい雨続く
梅雨前線は停滞。山形県小国町77mm/h、新潟県関川村67mm/h等、新潟・山形・福島県で激しい雨が続く。福島県只見町や新潟県栃尾市では13日からの総雨量が600mmを超える。



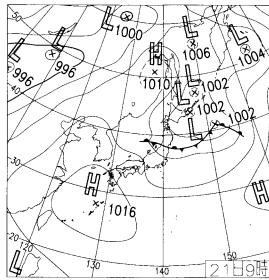
18日(日)福井豪雨
梅雨前線はわずかに南下し、未明から福井県を中心に猛烈な雨。美山町88mm/h、福井市75mm/h、美山町では日雨量283mm、土砂災害や堤防決壊による浸水害等、被害甚大。



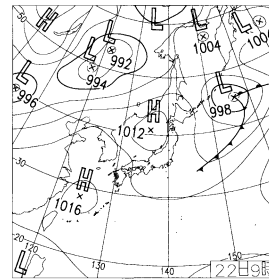
19日(月)梅雨前線北上
梅雨前線は東北北部に北上。秋田県田沢湖町40mm/h等、秋田県を中心に夜になって激しい雨。その他は概ね晴れ。関東・東海・近畿では最高気温が平年を4~6℃上回る暑さ。



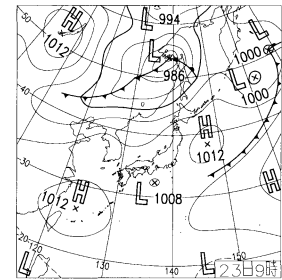
20日(火)東京で史上最高39.5℃
北陸や北日本が曇りや雨の他は、高気圧に覆われ、晴れて気温上昇。東京は北西の風によるフェーン効果の加わり、年間を通じて観測史上最高の39.5℃を観測。



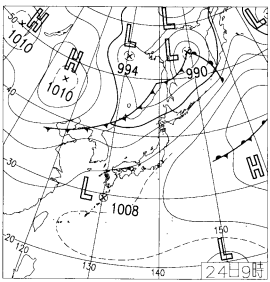
21日(水)東京朝の気温30.1℃
東日本~西諸島は引き続き高気圧に覆われ晴れ。東・西日本は前日の暑さが残り熱帯夜の所多く、東京の朝の最低気温は30.1℃。甲府市の最高気温は40.4℃、通年の記録を更新。



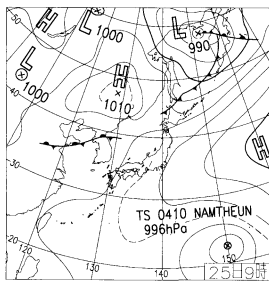
22日(木)北陸・東北梅雨明け
低気圧や前線が日本の東海上に抜け、日本付近は広く高気圧に覆われる。関東の厳しい暑さはやわらぎ、東京の最高気温は前日より6.4℃低い31.7℃。



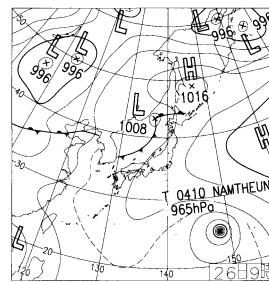
23日(金)全国的に晴れ
高気圧に緩やかに覆われて、全国的に晴れ。最高気温は北日本を中心に平年より高く、北海道も所々で真夏日。紋別市は平年より約11℃高い32.3℃。札幌市は約6℃高い31.9℃。



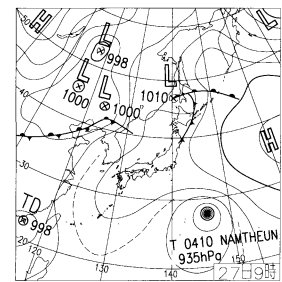
24日(土)大気の状態不安定
高気圧に覆われほぼ全国的に晴れ。午後は大気の状態が不安定となり山沿いを中心に所々で30mm/hを超える激しい雷雨。北海道網走市の最高気温35.8℃は、7月で2位の記録。



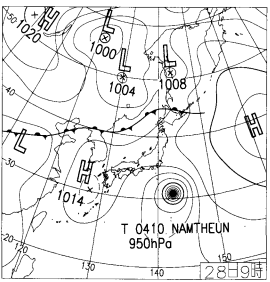
25日(日)広い範囲で雷雨
日本付近は太平洋高気圧に緩やかに覆われ、概ね晴れ。日本上空に南海上から寒気が入り、午後は山沿いを中心に広い範囲で雷雨。愛媛県西条市で49mm/h、落雷による被害多発。



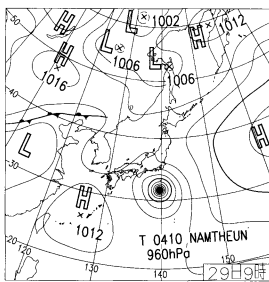
26日(月)東・西日本午後雷雨
北日本は動きの遅い低気圧の影響で曇りや雨。その他は概ね晴れるが大気の状態が不安定なため、午後には局地的に30mm/hを超える激しい雷雨。福岡県篠栗町で64mm/h。



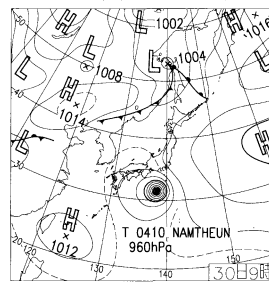
27日(火)大気不安定次第に解消
太平洋高気圧に覆われ、ほぼ全国的に晴れ。関東~西日本は所々で雷雨となるが、上空の寒気は弱まり、大気不安定な状態は次第に解消。台風第10号は父島の東を北西進。



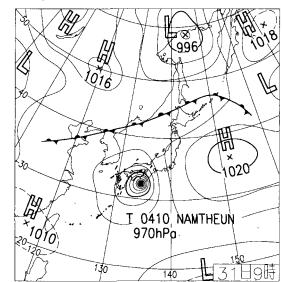
28日(水)伊豆諸島猛烈なしげ
北日本は前線の影響で曇りや雨。その他は太平洋高気圧に覆われ概ね晴れ。台風第10号が八丈島の南を西進し、伊豆諸島の海上は9mを超える猛烈なしげ。関東では夕方から雨。



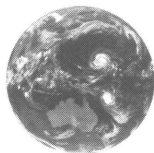
29日(木)関東大雨南大東島少雨
台風第10号の接近により、関東を中心に雨。山沿いでは日雨量100mmを超える大雨。その他は高気圧に覆われて晴れ。南大東島では6月21日以降の総雨量9.5mm、少雨が続く。



30日(金)三重県、和歌山県大雨
台風第10号の雨雲がかかる関東~紀伊半島は、断続的に激しい雨。奈良県上北山村では日雨量327mm。台風動きが遅いため降雨域もほとんど停滞。その他は晴れて厳しい暑さ。

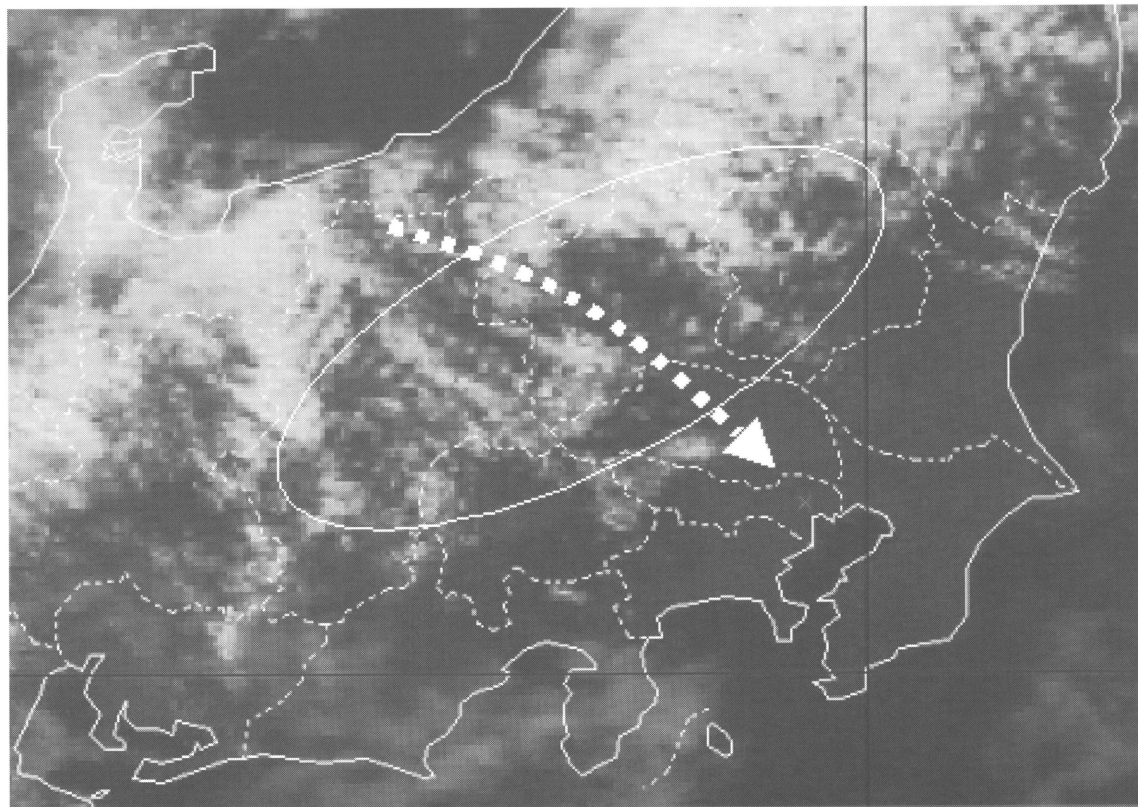


31日(土)台風高知県西部に上陸
台風第10号は高知県、続いて広島県に上陸。高知県には今年3個目の台風が上陸。奈良・徳島・高知県の一部では日雨量500mm以上。室戸岬の最大瞬間風速は歴代9位の60.9m/s。



今月の衛星画像—2004年7月

記録的な猛暑とフェーン現象



2004年7月20日1時の可視画像

2004年7月20日午後0時58分、東京大手町では39.5°Cを観測し、1923年の統計開始以来の最高気温を記録した。この日、関東近郊では35°Cを越えた所が多く、東京都内では猛暑のため48人が熱中症などで病院に搬送された。

写真は、午後1時の可視画像である。中部山岳や越後山脈の北西側には、山岳によって堰き止められた下層の雲が見られ、弱い雨が降っている。一方、山岳の南東側には山脈に平行な走行をもつ等間隔に並んだ雲の列が見られる（図中囲み領域）。これは、「波状雲」と呼ばれ、山越え気流に伴って発生する。

午前9時の地上天気図によると、日本の南海上に太平洋高気圧があって、西日本に張り出している。雲画

像にみられる「波状雲」は、高気圧の縁辺を回った暖かく湿った気流が、日本海側から中部山岳や越後山脈を越えて、関東平野に吹いていることを示唆している（図中矢印）。山岳を挟んで風上側では降水があり、風下側では昇温して湿度が下がり（東京の最小湿度は26%）晴天となっていることから、「フェーン現象」が発生したと考えられる。

関東近郊の記録的な猛暑は、太平洋高気圧におおわれて高温の日が続いていた上に、当日はこの「フェーン現象」も加わったためと思われる。翌21日も、甲府で40.4°C（歴代1位）、東京でも38.1°C（歴代2位タイ）を記録するなど、連日の酷暑であった。

（気象衛星センター）